



「学びの秋」になりました！

2学期がスタートして1か月が過ぎました。9月は暑かったり涼しかったり、雨が降ったり、台風が来たりと気温も天気も日によって変わった月で、体調を整えるのも大変な9月だったと思います。しかし、そのような中でも弥生小の子どもたちは元気に過ごしていました。

だいぶ過ごしやすくなってきた秋ですが、秋は「食欲の秋」や「スポーツの秋」、「芸術の秋」など様々な言葉があります。やはり過ごしやすいため、様々な活動ができる季節ということなのでしょう。熱中症の危険もなく、子どもたちが活発に活動できるこの季節は、学校にとっては「学びの秋」なのです。

5年生は、9月24日(木)から4泊5日の自然学校に行ってきましたし、9月29日(火)は1・2年生の校外学習(神戸どうぶつ王国)9月30日(水)は3年生の市内巡り、10月に入るとトライやるウィーク、6年生の富士小学校と交流会、そして弥生音楽会と様々な行事が目白押しです。(11月に4年生社会見学、6年生修学旅行があります。)

このような活動は、学校では…教室では感じられない「実感」という学びがあります。色・手触り・におい・音、そして仲間と食べるお弁当の味。五感をすべて使った「学ぶ」機会です。家族旅行とはまた違った多くの学びがあります。お弁当など保護者の皆さんにはお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



感染症にご注意を！

感染症がじわじわと広がっています。今年のインフルエンザは、昨年よりも1週間ほど流行が早いと報道がありました。大阪府では「流行宣言」が出されたりと兵庫県にもその影響が出ているようです。ただ、インフルエンザだけではなく、溶連菌やマイコプラズマ肺炎、新型コロナ、胃腸風邪と様々な感染症も出ているようです。

感染症から身を守るためには、やはり「手洗い」「うがい」が効果的だそうです。また、バランスの取れた食事(好き嫌いしないでなんでも食べる)や運動、睡眠など体が元気であることが感染症から身を守ることだそうです。ウイルスをはね返す免疫力を高めるためにも、毎日の健康を保っていきたいですね。

【基本的な感染対策】

- ◆**マスクの着用**:インフルエンザの主な感染経路は飛沫感染です。適切なマスクの着用をお願いします。
- ◆**手洗い**:流水と石鹸による手洗いでウイルスを物理的に除去できます。アルコール製剤による手指衛生も効果的です。
- ◆**うがい**:1日数回(外出後・食後・のどに不快感があるとき)、水道水でガラガラうがいを15秒3回繰り返すと効果的です。
- ◆**換気**:1時間に2回以上(30分に1回、数分間)窓を全開にするなど、定期的な換気を心がけてください。
- ◆**適度な保湿**:空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下します。加湿器などで湿度50～60%を保ちましょう。

弥生小学校 2026年度 10月 学校行事予定

日	曜	学校行事	給食	日	曜	学校行事	給食
1	木	14:15下校 学校司書	○	17	土	休業日	
2	金	6年修学旅行説明会16:00 外国語S	○	18	日	休日 (弥生が丘人權研修会13:30)	
3	土	休業日		19	月	トライやるウィーク(～9/23) やよいタイム 一斉終会(14:15下校)	○
4	日	休日		20	火	学校司書 ALT	○
5	月	全校朝会 委員会活動 教育実習(～10/30)	○	21	水	5年水泳指導② 定時退勤日	○
6	火	4年水泳指導④ 学校司書 ALT	○	22	木	14:15下校 学校司書	○
7	水	2年水泳指導③ 定時退勤日 富士中校区6年生交流会(4～6時間目)	△ 6年弁当	23	金	にこにこデー やよい読書の日 3年アリスの会読み聞かせ(4時間目) 2年水泳指導④ 外国語S	○
8	木	やよいっ子委員会 6年心の学習(4時間目) SC	○	24	土	休業日	
9	金	音楽会固定時間割開始 5・6年楽器搬入(1時間目) 外国語S	○	25	日	休日	
10	土	休業日		26	月	一斉終会 14:15下校	○
11	日	休日		27	火	学校司書 ALT	○
12	月	スポーツの日		28	水	やよいっ子音楽会(2～3時間目) 定時退勤日	○
13	火	学団朝会 学校司書 ALT	○	29	木	後期歯科健診10:30～ 学校司書	○
14	水	4年色覚検査(希望者)(1時間目) 5年水泳指導① 定時退勤日	○	30	金	外国語S	○
15	木	学校司書 安全点検の日	○	31	土	音楽会	—
16	金	外国語S	○				

<11月の主な予定>

5日:6年生4校時下校 6日～7日:6年生修学旅行(広島) 9日:6年生代休
10日:4年生社会見学(県庁、人と防災未来センター) 13日:弁護士授業(3～6年)
18日:就学時健診(新1年生) 19日:芸術鑑賞会 21日:防災参観日 24日:代休

音楽会に向けて！

10月31日(土)に音楽会があります。夏休みからリコーダーなどの練習が始まった学年があると思いますが、いよいよその練習の成果を発揮する本番がやって来ます。子どもたちの頑張りを見ていただきたいと思います。10/9より授業の時間割も音楽会に向けての特別時間割になりますので、忘れ物などないように少し見ていただければありがたいです。

我慢することの大切さ ～校長の独り言～

先日、スーパーのお菓子コーナーで、床に仰向きになって足をバタつかせながら、すごく大きな声で泣きじゃくる小さい子どもを見かけました。(ほしいお菓子があったんだね…)としばらく見ていると、お母さんが近づいてきて、子どもの泣き声に負けないぐらい大きな声で

「そんな大きな声で泣いていると店の人に怒られる。買いません。絶対買わないからね!」

と、その子を引きずり、店の出入り口へ向かっていきました。さらに火のついたように泣き、モップのように引きずられた子の服にはゴミがついていました。(あ～あ…虐待になっちゃうよ…)結局、出入り口付近で抱き上げられ、外に連れ出されて行きました。

残念ながら、最近よくこのような場面を見ることがあります。小さい子は欲求が強いから仕方のないことなのかもしれませんが、このお母さんの発言には同意できないところがあります。一つは「**店の人に怒られる**」です。人に怒られるから泣き止みなさいという理由は、本当に正しい指導、しつけなのでしょうか。それに店の人に怒られるのは本当にこの子なののでしょうか？

もう一つは、子どもが泣いているのは、自分の主張を聞いてもらえないから「泣く」「床に寝転がる」「足をバタつかせる」のです。お母さんは子どもに声をかけていますが「**会話**」になっていません。こうなる前に「このお菓子が欲しかったの？」と子どもの**気持ちに寄り添ったり**、「今日はお金が少ないから、次来た時に買うね」と**理由や見通し**が持てると、子どもはこんなにも泣きじゃくったりしなかったのではないのでしょうか。ちょっとした声掛けでずいぶんと結果が違うものです。しかしながら、いつもゆっくりと会話する時間が取れる訳ではありません。日常のことであるがゆえに、子どもには「**我慢する力**」は持ってもらいたいですよね。

我慢する力は、集団生活において必要不可欠なものです。全校朝会でも子どもたちに「**集団生活では、少しの我慢と、少しのゆずり合いが必要だよ**」と何度となく伝えています。社会のなかで生きていくためには、ある程度の我慢を覚えさせていくことも必要です。また年齢が上がっていくにつれて我慢することも多くなります。かといって、我慢ばかりさせるのも…と悩むところです。一方的に、理由がわからないまま我慢をさせると、まるで自分自身が否定されているように感じるため、**自尊心や自己肯定感が低下**してしまいます。ですので、子どもに「なぜ我慢しなければならないか」をきちんと説明し、理解・納得させてあげることが大切です。納得していれば、我慢をするなかで、子どもは**自制心や善悪の判断基準を身につけていく**ことができるからです。

我慢は、させ方次第で子どもにとって**プラス**にも**マイナス**にもなります。我慢をさせる必要があるときは、子どもの心に届く言葉で説明し、成長を促す機会にしていきたいですね。

<我慢する力を伸ばすには…>

◆子どもの気持ちを受け止める

「○○したい」という子どもの気持ちをまず受け止めて**会話**をすると、子どものなぜしたいのかを理解することができます。会話をすることで気持ちが落ち着きますし、解決するための話ができます。話を聴いてくれるという安心感につながり、自己有用感も高まります。

しかし、一方的に「**ダメなものはダメ!**」と言ってしまうと余計に泣き叫んだり、駄々をこねてしまいます。またにらむなどの威圧的にしてもその場はおさまりますが、我慢する力につながりません。



◆理由を話す

なぜ今我慢するのかしっかりとその理由を説明し、理解・納得させる。世の中、無理なことはいっぱいあります。ですがその理由をしっかりと説明することは大切です。「無理」「できない」だけではなかなか理解・納得できません。経済的なこと、時間的なこと等さまざまな理由があるはずです。

◆見通しを持たせる

理由を話し、納得させても子どもの「したい」気持ちはなかなかおさまらないことがあります。「今日できないけど、土曜日にしようか」など**具体的な見通しを話す**ことで、「したい」気持ちを抑えることができます。もちろん期待感を持っていますので、約束をしっかりと守ってあげてくださいね。

◆代案を提案する

何かをしようとしたときに、例えば「雨」で外での活動ができなかった場合、それに代わる案を子どもに聞いてあげてください。もちろん代案がすぐに出ないことが多いと思いますが、「**まず聞く**」ことが大切です。年齢によって当然知らないこともいっぱいあって、代案を思いつかない子どもが多いと思います。先に大人から代案を出すのではなく、子どもに聞くことで「**自分が選択する**」という意識が先行します。その後、代案を提示することで、その代案を「自分が選択した」ことになるわけです。

「雨でキャッチボールできないね…どうしようか?」とできない理由を入れて尋ねることで、子どもは考えます。「じゃあ、ボードゲームしようよ」と子どもからの提案があればそれでいいですし、「う～ん…」と悩んでいるなら、「図書館に行ってみようか?」や「博物館はどう?」などの代案を提案すると、その中で子ども自身が選択します。「**雨だからダメ**」ではなく、「**雨でもできる**」というプラスの気持ち「**問題解決能力**」が育ちます。

◆保護者の我慢する姿を見せる

子どもにとって一番の手本は保護者です。子どもは本当によく見ています。例えば「9 時を過ぎたから甘いものは食べない。健康に悪いしね。我慢しよう!」と子どもにアピールするだけで、子どもの心にしみこんでいきます。なぜ我慢をするのかその理由や具体的な内容をしっかりと伝えることで、子ども自身が**我慢することには「理由がある」**と理解していきます。

また、我慢させるときの基準をブレさせないことも大切です。例えばゲームの時間を 1 時間と決めていても「今日は 2 時間いいよ。」「今日はやっちゃダメ!」と**理由もなく曖昧**にしまうと、善悪の判断がつかなくなっていくます。「**ルールを守る**」ことは当然大切です。「ルールを守ることは当然だ!」が身に着けば、我慢することはありません。

×我慢をさせない

子どものいうこと、わがままを聞いて我慢をさせないことは、子どもの**自制心が育ちません**。何でも「自分の思い通りになる」という考えは大変危険です。

我慢する力を伸ばすことは、「自分は大切にされている」という自己有用感や自己肯定感、課題にぶつかった時に乗り越えるための問題解決能力など、様々な力が育ちます。もちろん一朝一夕で力が伸びる訳ではありません。日常の小さなことの積み重ねが子どもの成長につながっていきます。

私たち大人も我慢が足りないところがありますが、子どもたちといっしょに我慢する力を伸ばしていきたいですね。

